

みしまゆきお

ほんを かき、

にほんを あいした ひと



ちいさなゆきお

むかしむかし、とうきょうに、
ほんが だいすきな
おとこのこが いました。

なまえは、
ひらおか きみたけ。



おはなしをかく

きみたけは、おはなしを
かくのも だいすき。

おおきくなると、
みしまゆきお という なまえで、
ほんを かきました。



かめんのこくはく

あるひ、ゆきおは
「かめんのこくはく」という
ほんを かきました。

たくさんの ひとが、
ゆきおの ほんを よみました。

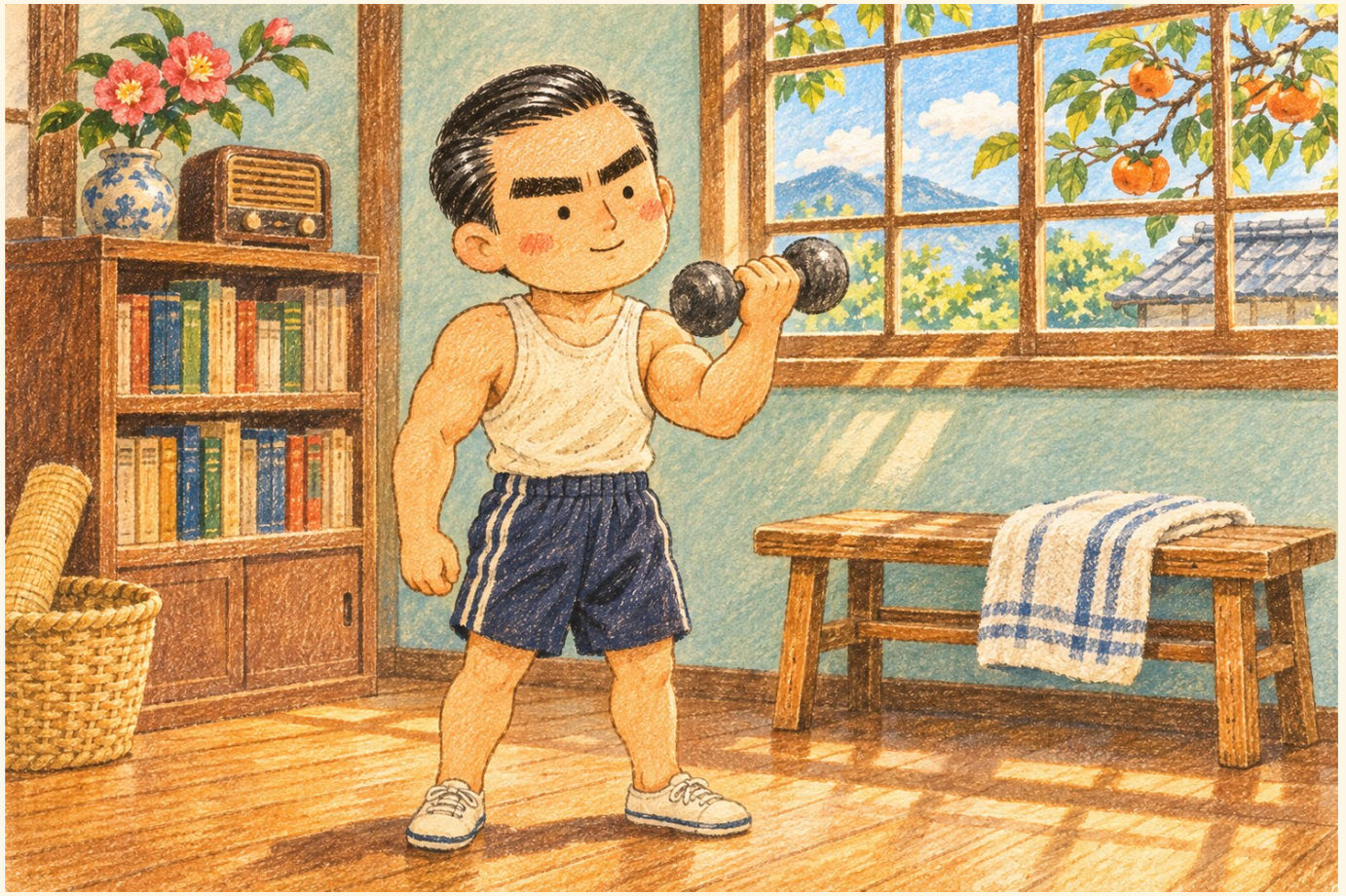


きんかくじ

「きんかくじ」という ほんも
かきました。

きらきら ひかる おてらの
おはなしです。

ゆきおは、ゆうめいな
さっかに なりました。



むきむきゆきお

ゆきおは、からだも
きたえました。

いち、に、さん、し。

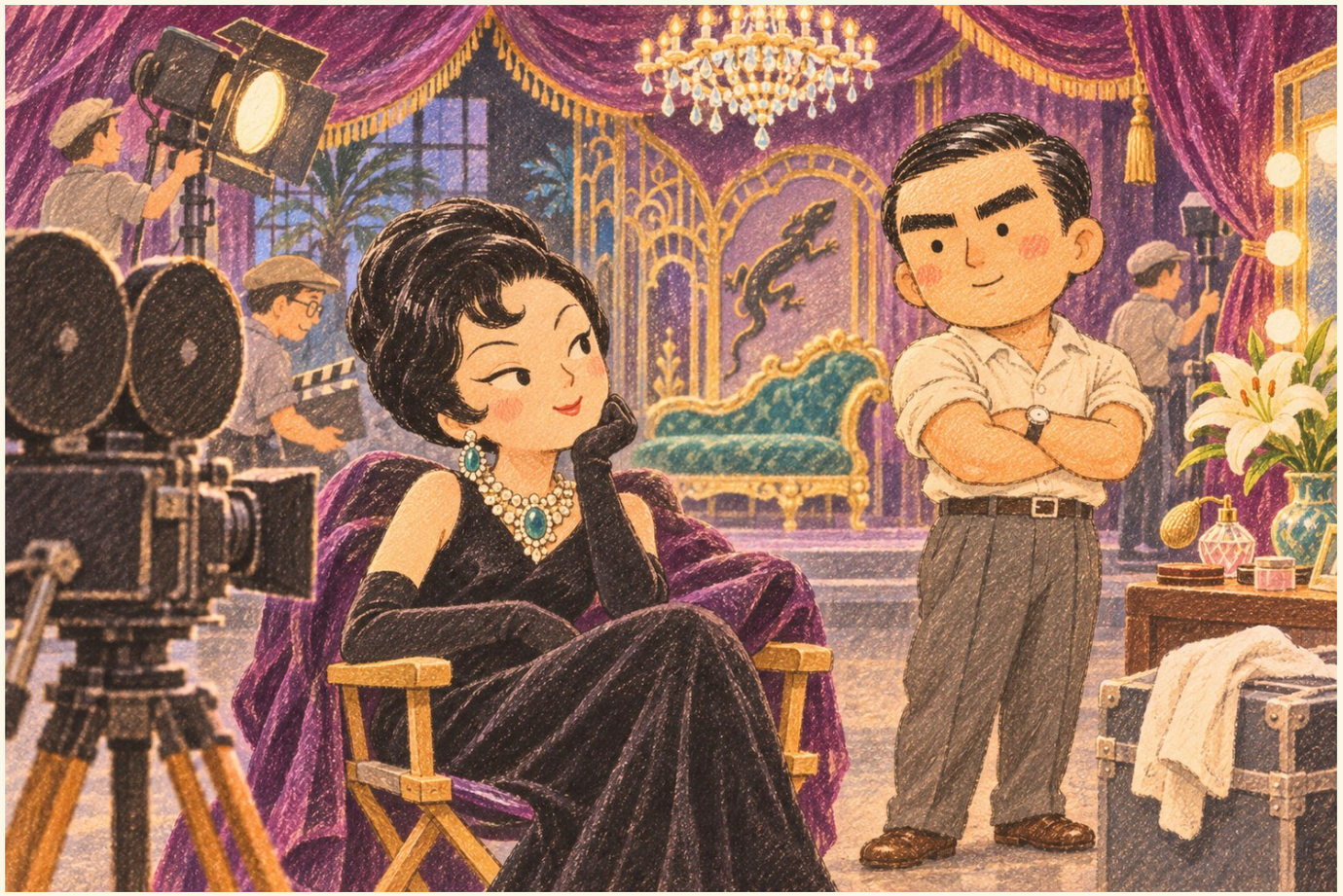
まいにち うんどうして、
むきむきの ゆきおに
なりました。



にほんがだいすき

ゆきおは、にほんの くにが
だいすきでした。

さくらの はなも、
ふるい おてらも、
むかしからの ぶんかも、
だいすきでした。



くろとかげ

ゆきおは、えいがにも
でました。

みわ あきひろさんと でたのは
「くろとかげ」。

ほんも かけて、おしばいも
できたのです。



たてのかい

ゆきおは、にほんの ぶんかを
まもりたいと おもいました。

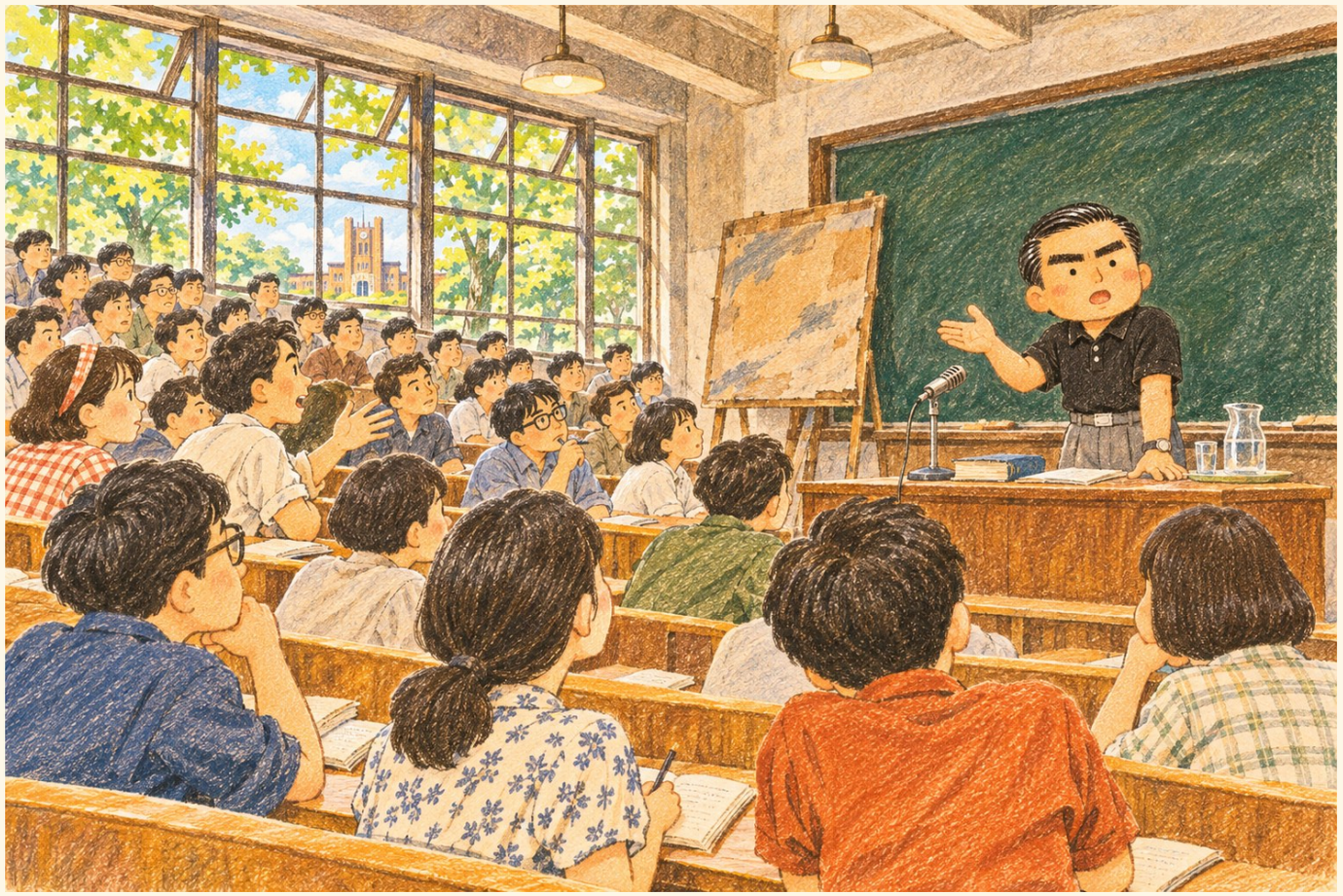
そして、なかまたちと、
たてのかいを つくりました。



なかまといっしょ

たてのかいの なかまたちは、
いっしょに からだを
きたえました。

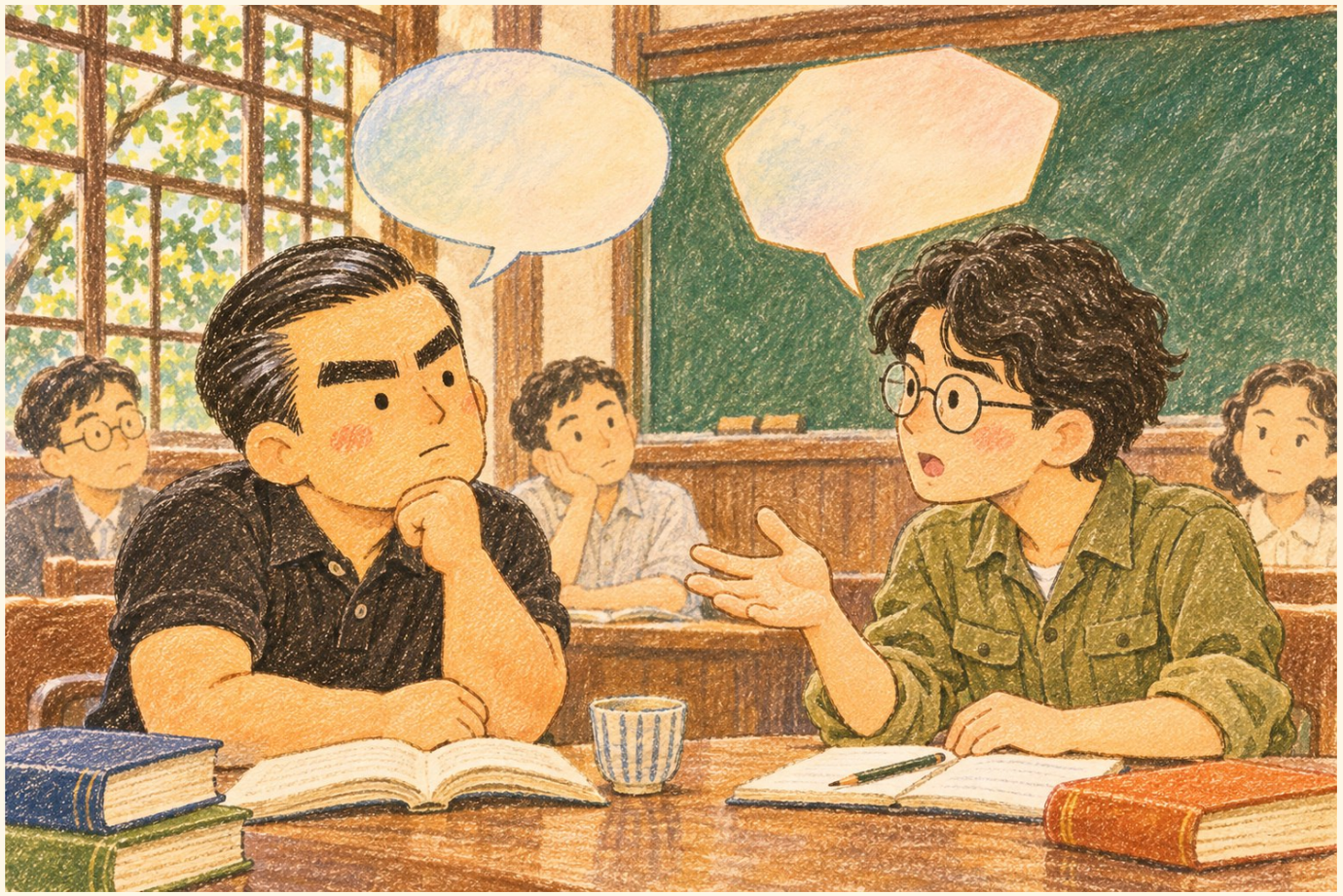
ゆきおは、にほんの これからを
かんがえました。



とうだいぜんきょうとう

あるひ、ゆきおは、
とうきょうだいがくへ
いきました。

とうだいぜんきょうとうの
がくせいたちと、たくさん
おはなしを しました。



ちがうかんがえ

ゆきおと がくせいたちは、
かんがえが ちがいました。

それでも、おたがいの ことばに
みみを かたむけました。



けっき

にほんの ぶんかは、
これから どうなるのかな。

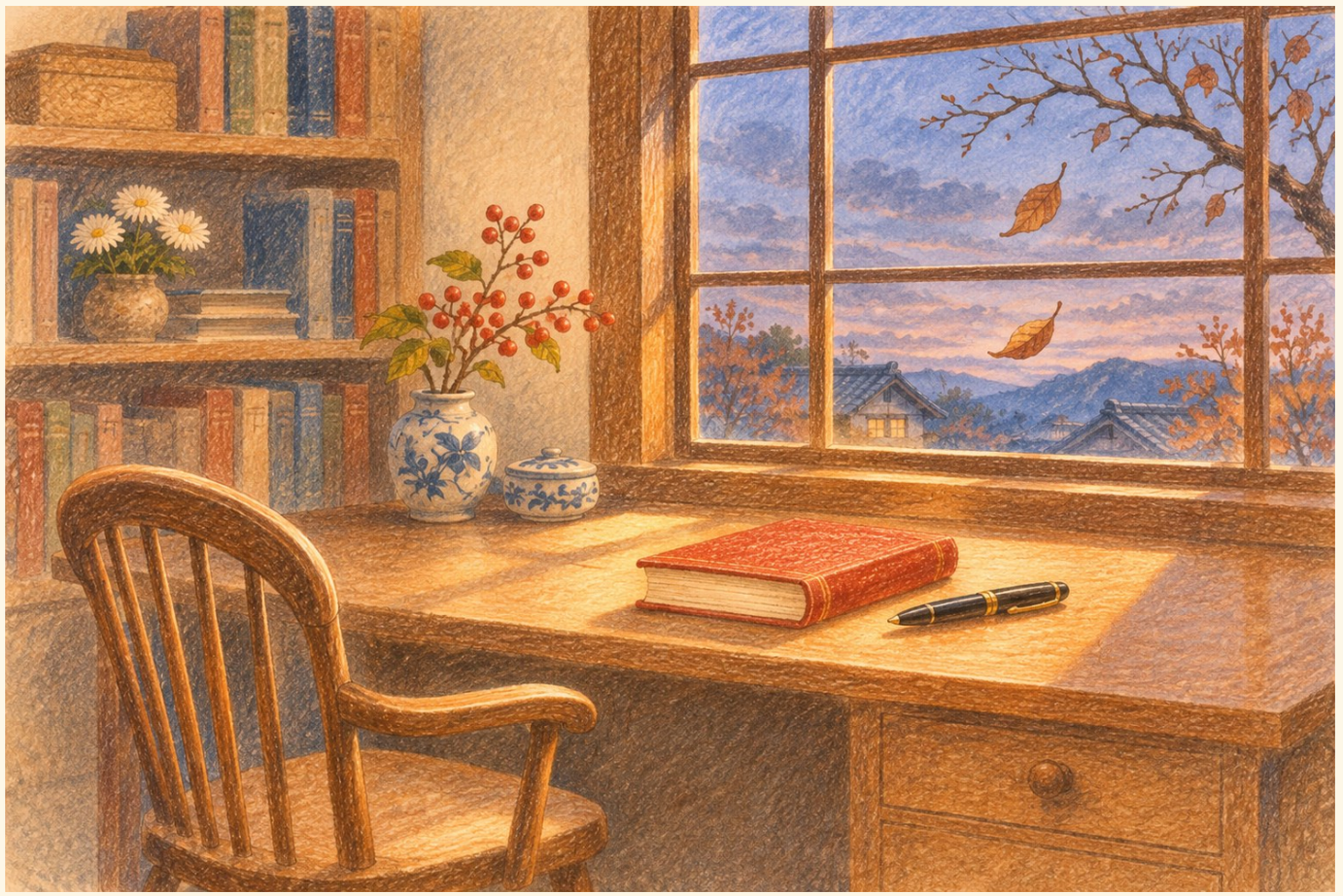
しんぱいした ゆきおは、
なかまと いっしょに
じえいたいへ いくことを
きめました。



さいごのえんぜつ

あきの ひ、ゆきおは
じえいたいに おしかけ、
くにの きまり、けんぽうを
かえようと うったえました。

たいいんたちは
くわわりませんでした。



かなしいおわかれ

そのひ、ゆきおは
じぶんの いのちを
おわらせました。

とても かなしい
できごとでした。



いまもこころに

ゆきおが のこした ほんと、
にほんの ぶんかへの おもいは、

いまも たくさんの ひとの
こころに のこっています。